

香料文化の歴史と商品開発への影響

榊原 理奈

【要旨】

本論文では、日常生活において化粧品や食品など、幅広く活用されている香料の製法と歴史を調べ、その商品への影響を考察した。本論1-5章の内容は以下の通りである。

第1章から第3章までは、香料に関する基礎的知識を解説し、世界と日本における香料の歴史を概観した。第4章では、19世紀以降に盛んになった世界の香水産業の歴史を扱い、時代の影響を受けてどのような香水の名品が誕生したのかについて述べ日本の香水産業についても調査した。第5章では、香料の商品への影響の事例として、日本における柔軟剤と制汗剤を取り上げ、香料の文化史という観点で西洋と日本を比較し、日本人の香りに関する意識を基に論じた。さらに、現在「スメルハラスメント」や「香害」と呼ばれる社会問題は、日本人が企業戦略に乗り安易に西洋の香りを受け入れていた結果、本来は好みでない香りを必要以上に受け入れる生活環境を作ってしまったことに起因すると結論した。

【講評】

本論文は、日常生活において化粧品や食品等、広範に活用され、香料に着目し、その製法と歴史を調べ、商品への影響を考察したものである。著者は、その卒業論文の製法と歴史について、19世紀以降、香水の製造法や歴史について、その足跡を丹念に追いついてきた。また、香料の文化史と日本の香料の歴史を比較し、「香り」についても興味深い。さらに「スメルハラメント」や「香料の歴史」など、現在注目されている点を取り上げ、企業戦略の観点から、自然科学、人文科学、社会科学的な内容に仕上がっている。優秀卒業論文に選ばれるべき内容である。